



中高生から社会に向けた 20の提言

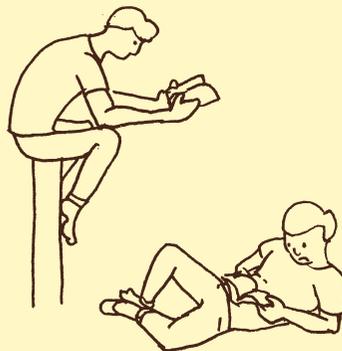
～今を生きる中高生から、大人へのメッセージ～

PROPOSAL
TO
SOCIETY



① じっくり一人で読んでみる。

中高生たちの声に耳を傾けて、自分にできることはなにかと考えてみる。
また、自分のまわりでできそうな人がいないか考えてみる。



② みんなで読んでみる。

家族や、仲の良い友人と、同じ価値観を持つ仲間や、職場の仲間達と。
一緒にできることや、社会ができることを考えてみる。



③ まずはやってみる。

提言をアイデアの元にして新しい取り組みが生まれる。既にある取り組みに提言の要素を加えて発展させる。
そんなことが起きたら素敵だと思います。



今を生きる、
中高生が求める
心の声を形にしました。

計 21 時間

13 人の
まちのステキな
大人に出会う

14 人の
本気で向き合っ
てくれた大学生

3日間で計21時間。中高生が、「社会が応えてくれる」と期待を持って、想いを込めて形にした提言です。きつと、たくさん
の発見や驚きがあると思います。

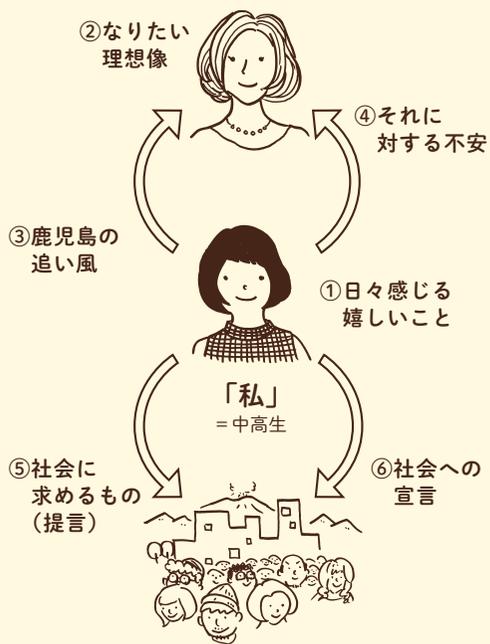
言語化するのも簡単ではない
想いを、大学生スタッフと共に
「まち・社会への『提言』と『宣言』
」としてつくり上げました。
鹿児島島のまちを歩き、仕事・
商売をしている大人の話の間近

で聞き、「このまちで豊かに生
きること」の一端を感じました。
素敵な大人の生き方を聞き、近
い距離で話をするので、「か
ごしまで豊かに生きていくこ
と」のイメージを抱きました。

提言内容の構成

大きく6つの流れで提言をまとめられています。

- ①「私」は日々どんなことに嬉しいと思っ
て生きているか
- ②「私」が今思う、「将来の理想像」
- ③今回知った鹿児島島の「私」に吹く「
追い風」
- ④同時に、「私」が抱えている、これか
らへの不安
- ⑤だから今「私」が社会に求めること
【提言】
- ⑥そして「私」が【宣言】すること



今回のような場

大学生・素敵に働いている大人と出会う機会をもっとつくってほしい。(P8)

価値観・柔軟な思考を広くするため、いろんな世代の人と関われる場を増やしてほしい！(P11)

世代を超えて互いに意見を交換できる場所を増やしてほしい！(P12)

鹿児島の、あたたかい人・おもしろい人・フレンドリーな人と触れ合う場を求めています。(P14)

自然と若者の接点を増やす

鹿児島の自然の魅力に、若者がもっと触れ合えるように！(P18)

学校や世代、全てのものをつばらった繋がりをつくれる機会を求めたい！(P9)

「発信する場」と「新しいことを始めてもあたたかく受け止めてもらえる環境」がほしい！(P10)

自分の意見を気軽に言い合うことのできる機会を求めます。(P13)

自然と都市の共生

働く女性が癒されるような、自然あふれる場所と都会感のある場所、両方がある街にしてほしい。(P17)

中高生から社会に向けた 20の提言

学校の授業で 今回のような場

学校の授業として、「鹿児島を良くしよう！」としている大人の話聴き、ひとりひとりと話す場をつくってほしい。(P6)

社会と学校が協力して、素敵な大人と関わる環境をつくってもらいたい。(P7)

進学を知る機会

県外の専門学校の人を鹿児島に呼んで、直接説明を聴きたい！(P15)

教育への提言

「受け止める優しさを学べる」幼稚園や保育園、小学校をつくってほしい。(P25)

仕事を知る機会

子どもが様々な仕事に出会い体験できるチャンスがほしい。(P22)

鹿児島のPRや学校でのハローワークの機会を増やしてほしいと思います。(P23)

市民の平等

「市民の平等」に関する小さな問題をもっと取り上げてほしい。(P24)

市民協働の提案

鹿児島市に、JK課(女子高生課)をつくって、大人と一緒になかを、つくり上げていきたい！(P16)

交流イベント開催

家族や世代を超えた文化を取り入れたイベントを、多様な主体をスタッフにして、開催したい！(P19)

鹿児島を「家族化」する気軽に話せるイベントを開きたい！(P20)

行く前にウキウキして、楽しみになるようなイベントをしてほしいです。(P21)



高等学校の
男子生徒より。

提言

社会と学校が協力して、
素敵な大人と関わる環境を
つくってもらいたい。

宣言

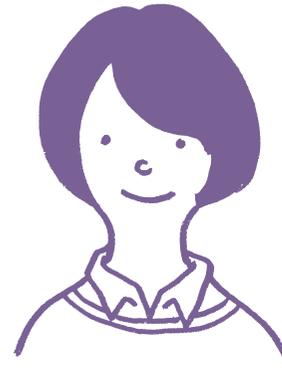
社会人になってから、
鹿児島をもっと良くできる
存在になりたいし、次代の中高生に
教えられる人になりたいです！

私が一番幸福と思うのは、友達同士のように、純粋に笑いあえる時に幸福を感じます。私はこの中高生ミーティングの中で、なりちゃん(ゲストの中尾さん)が言ったように少子高齢化というのが自分の中で問題だと感じました。少子高齢化していく社会の中で、少なくなっていく小中高生や、どんどん増えていく高齢者へのサポートをしていける存在になりたいと思いました。

鹿児島では、自分が参加している中高生ミーティングのような市単位で行っているイベントが実際にあって、自分もこのイベントに参加して1日目にヨガの先生だったり、二日目に5人のいろんな大人の話を聞くことで、鹿児島のためにやっていることや自分が歩んでいきたい人生活とか、イベントの中で大学生が僕に話してくれたことを3日間の中で学ぶことができました。

で学んだことはここに参加していない大半の人は知らないことが多いです。だから、僕らがこの中高生ミーティングで学んだことをより多くの人に知ってもらうことが大切だと思っています。そのために、小中高での国数英の授業だけではなく、社会と学校が協力して、総合学習の時間などで、大人と関わる環境を作ってもらいたいというのが僕の提言です。

自分自身では、高校3年生で進学にあたって鹿児島以外の大学に進学したいと思っています。鹿児島を出ることで、2日目のゲストの話からもあったように鹿児島の良い点や悪い点を自分自身で発見して、4年間の大学生活から戻ってきた後に鹿児島の良い点をより良く改善していけるような存在になりたいです。実際僕を支えてくれた大学生や話をしてくれた大人のような存在になって、何年後かに中高生に教えられたいような存在になりたいと思います。



高等学校の
女子生徒より。

提言

学校の授業として、
「鹿児島を良くしよう！」
としている大人の話聴き、
ひとりひとりと話す場を
つくってほしい。

宣言

そうした機会をつくるために、
行政側と生徒側のつなぎ役として
サポートしたい。
自分から働きかけたい。

私は日々、素敵な人との出逢い、素敵な話を聞くこと、人と良いコミュニケーションをとることに嬉しさを感じます。いろんな人の話を聞いて、自分の判断材料を増やし、人の気持ちを考えて行動できるようになりたいたいと思っています。

鹿児島には新しい考えを生み出す、面白くて素敵な人がたくさんあります。素敵な話もたくさんあります。素敵な人やおもしろい人はつながっているようです。社会との接点が少ない今の私は、素敵な大人に会いたいのにその機会が少ないことに不満を感じています。私はこの中高生ミーティングで、素敵な大人に出会うことが出来ました。鹿児島をより良くしようとしている大人と出会い、話を聞くことは良いことだと思います。

学校の中で授業として、鹿児島を良くしよう！としている大人の話聞く機会が欲しいです。たくさん大人に来てもらい、ひとりひとりと話す場をつ

くってほしいです。私は積極的に情報をつかまえて、参加していきたい、自分を成長させていきたいと思っています。いろんな人と出会って、いろんな考え方を自分の中に吸収していきたい。大人になって、私も素敵な大人の側に立って、話をできる人になりたい。鹿児島の魅力を伝えられる人、人の出逢いの良さを伝えたい。人生を楽しんで魅力的な人になりたい。県外との違いを知って、鹿児島の良いところをアピールできるようにになりたい。引き出しがたくさんある人になりたい。

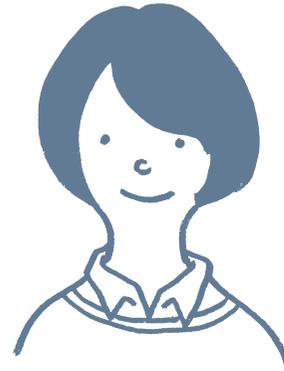
私はそのために、行政だけに任せるのではなく、行政側と生徒側のつなぎ役としてサポートしたり、誰を呼ぶかを考えたり、かみ合っていないかたことを軌道修正したり、自分から働きかけていきたい。スタッフとしてサポートしたいです。

提言

大学生・素敵に
働いている大人と
出会う機会をもっと
つくってほしい。

宣言

自分のためにも、
周りの人のためにも、
今回のような機会に
もっと積極的に
参加したいと思います。



高等学校の
女子生徒より。

実際に実行に移せる人は本当に一握りしかいないと思います。絶対にこの目標を達成してやると自分の中でどれだけ強く念じているか、これが一番と思っんですが、向上心の高い人が周りにたくさん

いる環境に自ら飛び込む、勉強に例えると、図書館の自習室みたいな。家ではしたくないから。特定の相手・ライバルをきめる。支え合うことができる仲間をつくる。今回のような行事にもっと参加す

追いついて話したいんですけど。走っているときに前から吹く風は向かい風ですね。タイムが遅くなるから、自分にとってはマイナスです。走っているときに後ろから吹く風はタイムがあるから、自分にとってプラスになります。自分にとっては、今回のこの中高生ミーティングに参加することができたことが、一番の

追いついたなと思いました。その中でもたくさんの方々の話を聞いたこと、これはすごく追い風になりました。不安なことは、思っていた以上に理想と現実の距離があること、自分の目標を達成できないかもしれないということです。三日坊主の自分には持続できないような大学生・素敵に働いているような大人と出会う機会をもっと作ってくれたら嬉しいと思います。自分で作ってしまえばいいのでは？たくさん勉強できることがあるし、素敵な経験になるということは、自分の引き出しを増やすことになるんじゃないでしょうか。(ゲストの西さん)の話も聞いて思いました。でも100%は絶対に無理。私は自分の目標・目指すところまでできる限り近づきたい。

ることが、自分にとってプラスになると思う。今回この行事に参加するにあたって、3日前はとってもドキドキしていたけど、たくさんの方々の話をすることは、例えとして、経験

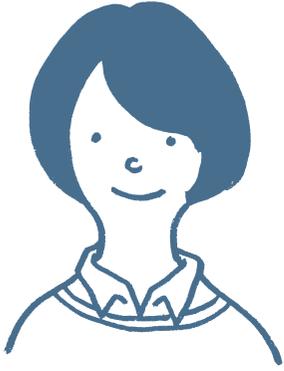
を絵の具だとすると、若いうちにたくさん色の絵の具を集めるといいことだと思います。今はわけていってしまっても今しがた集められない色で、将来カラフルでステキな絵が描けるかな。

提言

学校や世代、
全てのものをつばらった
繋がりをつくれる
機会を求めたいです。

宣言

これからも、卒業してからも、
人と繋がりを大切にして、
新たに繋がりを作れる場に
参加していくことを宣言します



高等学校の
女子生徒より。

私は、家族や友達と過ごせる時間を幸せに感じています。来年県外に進学するため、時間が経つほど強く思います。そんな私は、これから、たくさんの人と関わり、大きすぎるほどの夢を追い続けながら生きていきたいと思っています。いま私は、つながりのない世の中になっていくのではないかと不安に感じています。ネット社会が広がる中、たくさんの人と関わる機会が増えましたが、現実社会でつながりやコミュニケーションがとりにくくなっていくと感じます。

私は、社会に対して、中高生ミーティングのような同世代や多世代の方々と交流できる機会を充実させてほしいと思います。悩みを抱えたり、何か自分のできることはないかと躊躇うずしている中高生は多いと感じます。このような機会をたくさん作ってほしいし、広くPRしてほしいです。多くの中高生に現実社会で学校や世代、全てのものをつばらった繋がりをつくれる機会を求めたいと思います。

そして私は、中高生ミーティングのような場に積極的に参加していきたいです。高校を卒業しても、様々な人と繋がりを大切にし、新たに繋がりを作れる場に参加していくことを宣言します。

提言

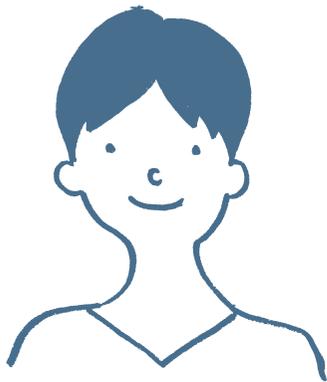
価値観・柔軟な思考を
広くするため、
いろんな世代の人と
関われる場を
増やしてほしい！

僕は人から頼りにされ、感謝された時や人と接して笑いあっているときに幸福だなあと感じます。
そんな僕はこれから自分から積極的により多くの人と関わり、お互いに楽しめるようなコミュニケーションをとり、その中で自分とは違った価値観を人

宣言

困っている人がいれば
恥ずかしながら手助けして、
周りの人に元気を
与えられるような
カッコいい人になります！

から吸収していきたいです。もし失敗しても、そのままにせず、それさえも人生の経験にしていきたいように生きていきたいです。
しかし、それと同時に僕が人どどのようにコミュニケーションをとれば相手を楽しませることができて、自己満足で終わる



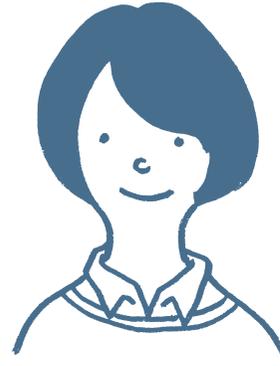
高等学校の
男子生徒より。

こののないコミュニケーションをとれるのか不安に思います。
そんな僕は、社会に対して、同世代だけでなく、いろんな世代の人達と関われるような機会を増やしてもらえよう求めます。そうすれば同世代だけでは得ることのない価値観を得られ、物事への柔軟な思考を広く

持つことができ、コミュニケーションをとる上での大切なことに気づけるからです。そして僕は困っている人がいれば恥ずかしながら手助けして、少しでも力になれるよう努力して、周りの人に元気を与えられるようなカッコいい人になることを宣言します。

提言

「発信する場」と
「新しいことを始めても
あたたかく受け止めてもらえる
環境」がほしい！



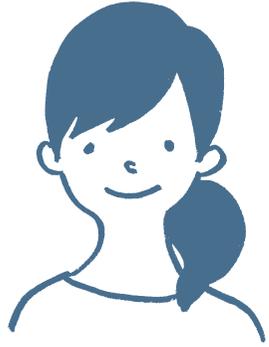
高等学校の
女子生徒より。

宣言

世の中に発信されているものを、
興味のあることだけでなく、
多様な事柄を受け取っていきたい。
そして、自分が社会に
発信する側になりたいと思います。

私は、生活している中で自分に共感してもらったり、逆に頼りにしてもらえると感じたときに充実感や嬉しさを感じます。これは今回のこの企画に参加してみないと気づけなかったことです。そのため、自分の得意・不得意に関わらず、人と話をする機会に自分から飛び込んでいくことが大切だと思います。
私は輝いている大人になりたいです。私が輝いていると感じるポイントは、どれだけ現状を楽しめるかです。今の自分はこの感覚ですぐうじうじしちゃうので、キラキラしてる大人になりたいです。今回、たくさん輝いている人達に出会ってきまして、その人たちに共通することは、苦勞をしても、それを苦と感じずに、前向きに取り組んでいることです。そういう人たちに近づくために、私はつつい口にしてしまう、「だるい」「めづい」といったマイナスイな言葉を言わないようにしたいです。

それと同時に私は新しいことを始めるときに、大きな失敗をするのではないかと不安を持っています。また、私のようにチャレンジしたいけど失敗を恐れている人はきっと大勢います。そのような人のためにも「発信する場」「新しいことを始めてもあたたかく受けとめてもらえる環境」を社会にたくさん提供してもらいたいです。
鹿児島には人と人とのつながりや温かさがあります。それはどこにでもある訳ではないので、とても誇りに思います。しかも現在はネットワークが広がり、地方だからこれができない、あれができないといった制限もほとんどありません。そのため鹿児島島のすごいものや人はどんな外に出て行くチャンスがあると思います。
しかし、そういったものを発信する力は他県と比べてまだまだ弱い気がしたので、もっと鹿児島全体でパワーのある人や企業を応援する場を整えてほしい



中学校の
女子生徒より。

提言

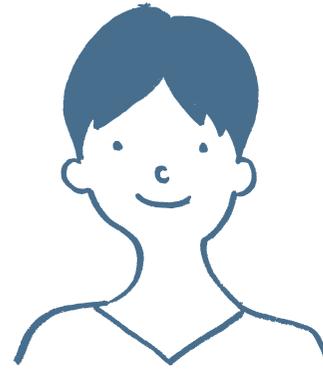
自分の意見を気軽に
言い合うことのできる
機会を求めます。

宣言

そうした機会があれば、
積極的に参加して、
自分の意見をしっかりと伝えたい。
そして、自分もそうした機会を
つくるお手伝いが
できたらいいと思います。

私は自分の意見を相手にハッキリと言えたとき、新しく友達ができ、さらに仲良くなったときなど、対人関係がうまくいったときに、幸福を感じます。そんな私は、今まで以上に自分の意見を伝えることが出来るようになりたいと思っています。でも、私は自分の意見に自信をなくしてしまい、人に意見を言うのが苦手で、将来ほかの人の意見にのまれて、自分の伝えたいことを伝えることができなくなってしまうのではないかと不安に思っています。そんな私は社会に対し、この中高生ミーティングのように自分の意見を気軽に言い合うことのできる機会を求めます。鹿児島は人と人との交流がさかんで、地域での愛護会などの取り組みも他県に比べて多いそうです。しかし、私の周りには、自分の意見をはっきりと言う機会が

ありません。しかも、私だけでなく、友達にも意見を伝えたくても伝えきれない人が何人もいます。他の学校では分かりますが、私の学校では一部のやんちゃな人たちが好き勝手に意見を言って、その他の人達には意見を言えずに、もやもやとした気分が残ってしまうことがよくあります。このような状態だと、自分の意見を相手に伝えることができなくなってしまうのではないかと思います。なので意見を伝え合う機会があれば、練習することができるようになるのではないかと思います。そして、私は色々なイベントに積極的に参加して、そこで自分の意見をしっかりと伝えることを宣言します。そして、もしできれば自分でもそのイベントをつくり上げるお手伝いのできたらいいと思います。



高等学校の
男子生徒より。

提言

世代を超えて
互いに意見を交換できる
場所を増やしてほしい！

宣言

そうした貴重な機会があれば、
積極的に参加していきたい。
そして社会人になったら、
自分の学びや経験を
中高生に伝えに行きたいです。

僕は壁にぶつかったり、不安なことがあるときに、手助けをしてもらえると感じています。鹿児島は地域としての結びつきが強く、自分が困っているときに近くに周りの人々が手を差し伸べてくれるのがとても素晴らしいことだと思います。なので、これからは自分もこのつながりを深めていくために、地域に貢献したり、地域活動に積極的に参加していくようにしていきたいです。また、鹿児島では人と人とのコミュニケーションがよくれていると思います。今回の素敵な大人の方々の話の中で、自分と一緒に仕事をした人が次は自分を紹介してくれることにより、また自分に仕事ができたり、物品を販売するときのやり取りで笑顔をもらえ、また顔見知りになれたりするなどのことを聞いて、一つの小さなことからつながりを見出すことができるコ

ミュニケーション力は他のところにはない素晴らしいところだと思います。しかし、僕は世代間に壁があり、コミュニケーションがとれていないと思います。なので、僕もこのような機会を増やしていただき、色々な世代が互いに意見を交換できる場所を作っていただきたいです。また、自分たちはそのように作っていただいた貴重な場に積極的に参加していきたいです。例えば、今は中高生として自分の意見を発信し、そして将来的には自分がこのような場に来て、社会人として学んだことや経験したことを自分のような中高生に伝えに行きたいです。そして互いの世代がコミュニケーションを少なくていくことで、世代の壁を少しずつ少なくしていき、鹿児島という地域をより良い豊かな場所にしていきたいです。

提言

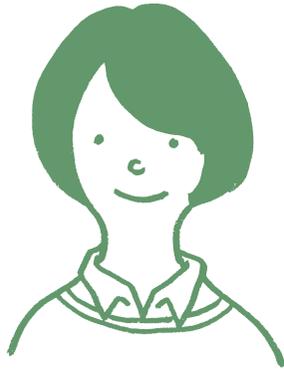
県外の専門学校の人を
鹿児島に呼んで、
直接説明を聴ける
機会がほしい。

私は、日々友達や家族とどこか行くときなどに楽しさを感じます。これから私は思ったことをすぐに行動に移し、いろんなことにチャレンジし、日々の生

宣言

自分の夢に向かって
努力するきっかけに
なると思うので、
そうした機会があれば
参加したいです。

活を楽しみたいです。都会に比べて、優しい人が多かったり、都会ではできない田舎ならではのドライブや楽しさがあります。



高等学校の
女子生徒より。

将来自分が好きなところに就職できるかの不安もあるけど、県外の専門学校の人が出て、その学校のことを説明してくれると分かりやすいと思うから増や

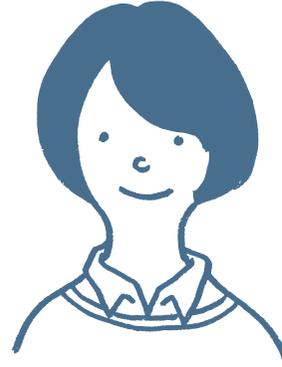
してほしいです。自分の夢に向かって努力するきっかけになると思ったので、私はそういうイベントに参加したいです。

提言

鹿児島、あたたかい人・
おもしろい人・
フレンドリーな人と
触れ合う場を求めています。

宣言

魅力のある大人たちが
たくさんいることを
周りの人に伝えたい。
自分も魅力のある
大人になりたいと思います！



高等学校の
女子生徒より。

えるのではないかと思います。そこで私は社会に対し、こういう人達と触れ合う場を求めます。私が中高生ミートイングで魅力のある大人の方々の話を聞いて、みんな輝いていて、いろ

いろな視点から考えられるようになりました。私も、自分の幸せを話せるかっこいい大人になりたいと思いました。だから、ふれあう場が増える、かっこいい大人たちを目指

す人が多くなり、鹿児島は、元気でキラキラしている人達で溢れていくと思います。そして私は、魅力のある大人たちがたくさんいるんだよっていうことを周りの人に伝えていきたいと思

います。そこで私はいま17歳で3年後には20歳になります。3年後までにはいろいろな経験を、魅力のある大人になりたいと思います!!

私が幸せだなんて感じることは、ボランティアに行ったときにお手伝いをしたり、利用者さんと一緒に何かをしたとき、笑顔で「ありがとう」と言ってもらえることです。私は夏休み、冬休み、春休みなどの長期期間や土日、たまに平日にもボランティアに行くことがあります。疲れていても、笑顔でありがとうと言ってくれると、もっともっと頑張ろうという気持ちになります。私の将来の夢は、臨床検査技師になって、たくさんの方々の笑顔を取り戻すことです。そして、いつかは青年海外協力隊として外国で働くことです。私は小学校に入学するまでずっと入院を繰り返して、病院で働く医者、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士などいろいろな職業を見てきました。そこで私が臨床検査技師になりたいと思ったのは、表で人の役に立つのではなく、裏で人の役に立ちたいと思ったからです。こういう大きな夢がある私に

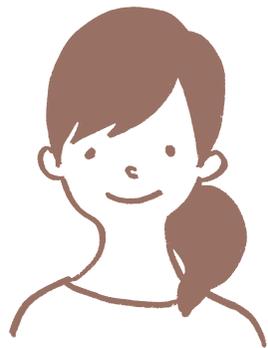
は、人と関わっていけるのかという不安があります。私は、自分の言動で相手を傷つけてしまっているのではないかと、人と関わるのが苦手で、今まで人と関わることを避けてきました。3年前、はじめて「アジア・鹿児島」に参加したとき、最初は緊張していた、自分の殻に閉じこもってました。でも、同じグループの人達が話しかけてくれたり、隣に座っていてくれたので、時間が経つにつれ、自分から人と関わることを望むようになりました。同年代の人達や外国の人達と関わっていく中で、人と関わることは大切で、楽しいことなんだなって思いました。鹿児島には、笑顔の人・明るい人・あたたかい人・おもしろい人・フレンドリーな人が多いです。私はこういう人達が増えたと増えてほしいと思っています。こういう人達が増える、私のように人と関わることが苦手な人でも、安心して人と話せたり、自分をさらけ出す人が増

提言

働く女性が癒されるような、
自然あふれる場所と
都会感のある場所、
両方がある街にしてほしい。

宣言

花を植えることで
自然も増えるし、
街がきれいになるので、
私は花を植えることを
宣言したいと思います。



中学校の
女子生徒より。

私は、朝の小鳥の声を聞くのが好きです。そんな私は、これからばりばり働いて旅行に行きたいです。それと同時に、鹿児島には働いた後に、落ち着く場所が少ないことに不安を感じて

います。そんな私は、社会に対して、働く女性を癒してくれる場所を増やしてほしいです。例えば、木でトンネルのように歩いている道を知っていて、そこを歩く

とリラックスできます。また、おしゃれなお店がある街も好きです。なので、自然あふれる場所と都会感のある場所、両方がある街にしてほしいです。私は、お

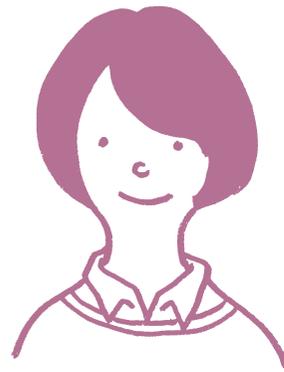
しゃれて自然なものといえば、花を連想します。花を植えることで自然も増えるし、街がきれいになるので、私は花を植えることを宣言したいと思います。

提言

鹿児島市に、
JK 課（女子高中生課）
をつくって、
若い世代が大人と一緒に
何かをつくり上げていきたい！

宣言

私が言い出しっぺだから、
JK 課の課長をやって、
どんどん前に
進めていきます！



高等学校の
女子生徒より。

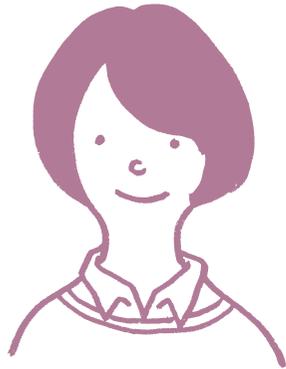
ッが配られて。そういうのって鹿児島ではあんまりないじゃないですか。九州までくるっていいけど、たぶん鹿児島まではこないって。鹿児島の人って福岡に頼りすぎなんです！夏

フェスも宮崎にあるし、みたいな。だからやりたいなって私はすごく感じたので、でも待ってても絶対こないから、同じ年の人が集まった課をつくって、自分

じゃあまず私の話を。私は結構最近引きこもりがちで、真っ暗な部屋でアニメ見たり、漫画を読んだりするのが好きなんです。でも行ったことのない場所に行くのも好きだし、わくわくしたいっていう、どっちつかずなんです。昨日、鹿児島は好きですかと聞かれたときに即答で嫌いと答えてしまったんですね。鹿児島って都会でも田舎でもない、どっちつかずなんです。まあ私もそうなんですけど、一刻も早く都会に出てみたいのがあったんですけど、昨日家に帰って考えてみて、食べ物話に例えるんですけど、スポンジがあって生クリームをぬればショートケーキ。チョコレイトクリームをぬればチョコレイトケーキ。私欲張りだからどっちも食べたんですけど、だからどっちもあるっていいことなんじゃないかなと思ったりもして。私の中にあったマイナスイメージは、マイナスイメージもプラスに考えようっていう二日目の5人の話を聞いて、あーそういうことかな！と思ったりして。

私がしたいなって思うことは初めてのことじゃなくて、他の県でもやってみようってんですけど、女子高中生課、JK 課ってあるんですよ。私いま高2なんです。私の中でイメージしてた高校生よりもだいたいぶ子どもなんですけど、もうすぐ子どもと大人の境界線？だけど、女子高生って最強じゃない？って思ったりして。商品開発だったり楽しいことと始めようっていう、考えることとだと思っってます。いろいろ何かを決める人って年齢が高い人が多いじゃないですか。おじさんだったり。でも若い人も住んでるわけで。若い人が楽しめることってのは私たちが若い人が考えたらもっとおもしろくなるんじゃないかなって思ったので女子高中生課っていうのを鹿児島にも欲しいなって思うのと、この前テレビを見て思ったんですけど、水風船の合戦みたいなのがあったんですよ。規模も何万人とかで、チケットも5〜10分とかで売り切れるみたいな。全員おそろいのTシャツ

い世代が大人と一緒にって何かをつくりあげたいなというのが一つと、それに対する宣言は、言い出しっぺなんで、課長は私です。ばしばししきります！



高等学校の
女子生徒より。

提言

家族や世代を超えた文化を
取り入れたイベントを、
多様な主体をスタッフにして、
開催したい！

宣言

イベントの情報を
twitter等で発信、
中高生に情報が
届けられるようにします。

私は好きなものがすごくはつきりしています。特にK・POPや洋楽がすごく好きです。なぜなら個性を前面に表現している姿にとてもわくわくするからです。私は友人と歌を歌ったり、個人的には変わった服を着ることにすごく幸せを感じます。いまは友人とだけ楽しんでいることをもっと多くの人と空間をともにして楽しみたいと思います。

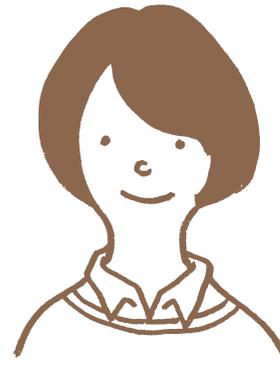
鹿児島は都会と田舎が中途半端に混ざっていて、まだまだ発展途上であると思います。私はこのような鹿児島がすごく大好きです。そこで老若男女、たくさんの人に鹿児島に来てほしいと思います。

そこで次のような提言をします。現在鹿児島では長い歴史と文化的な活動が積極的に行われています。しかし、なかなか情報を得ることは難しいと思います。さらに変化が見えない面も

あると思います。そこで私は家族や世代を超えた文化を取り入れたビックイベントを行いたいのではないかと考えました。

例えばおはら祭のバックミュージックをクラブページョンにするなど、現在行われているイベントとコラボレーションすることや、新しいイベントをするときに私たち高校生や若者、市民に外国人までスタッフを募り、たくさんの方の意見を取り入れると良いと思います。

そのために私たちができることは私たちはTwitter等での発信源となります。Twitterを使うことで発信源の特定、リツイート率の向上を図ることが期待できます。



高等学校の
女子生徒より。

提言

鹿児島島の自然の魅力に、
若者がもっと
触れ合えるように
してほしい。

宣言

今自分がしたい
と思うことを、
まっすぐに
やり切ります。

私は普段、鹿児島島の自然に触れ合ったり、料理をしたり、茶道をしたり、みんなでワイワイすることが、嬉しいなと思います。

将来は、自分に芯のある人間になりたいなと思っていて、それはきっと、一つのことを集中してやった人がなれるんだなってずっと思っていて、でも私は今、やりたいことがたくさんあって、全部やったらきつと中途半端に終わっちゃうんだらうなって思って、それをすごく不安に思っていました。

でも、今回、まちづくりミーティングでいるいるな大人の人のたちの話を聴いて、自分の色々経験してきたことや出会いが、全部引き出しになって、武器になるんだなって思って、すごく前向きな考えになりました。

私が社会に求めることは、私は県外出身なんですけど、鹿児島に来て、「あ、自然がすごく素敵だな」って思って、自然にすごく癒やされたりしました。だから、もっともっと、鹿児島島の自然の魅力を引き出してほし

いなくなって思っていて、きっと、その自然のチカラっていうのは若い人だけじゃなくて、いろんな世代の人の活力になっていくと思います。

でも、やっぱり若い人にとっで、車とか親とかがいなくて、自然にはふれあいにいけない、だからもっと、公園を近場に作ってもらったり、バスを整備してもらったりして、自然に身近にふれあえるようにしたいなと思います。きっとそうしていくうちに、みんなの活力になっていって、それが結果として、鹿児島島の活力になっていくと思います。

それで、私自身がやれることを考えたんですけど、私一人ができることはきつとちっちゃいんだらうなって思って、できることは、今自分の、料理とか社会の勉強とか、したいなって思っていることを、まっすぐにやり切ること、きつと誰かにそれが共鳴して、伝わって、社会に貢献できるんじゃないかなって思いました。

提言

鹿児島を「家族化」する
気軽に話せるイベントを
開きたい！

宣言

そういう場があれば、
自分も参加するし、
周りの人も誘う。
そこで出会った人と
いろんな会話をし、
つながっていきます！



中学校の
女子生徒より。

私は、人と「ありがとう」「ごめんなさい」「気にしないで」などという、心が温かくなるようなコミュニケーションをとれることが嬉しいです。

私は憧れてもらえるような人になりたいです。「憧れられる人」にも色々なジャンルがあるじゃないですか。スタイルとか。私は「気軽に話かけてもらえる人」に憧れています。例えば「あーなんかあのひとしゃべってみたい！」「話をしてほしいな」と思っています。あと一緒にいて、自然と笑顔になってもらえるような人になりたいです。鹿児島弁は標準語と違って、堅苦しくなく、ちょっと崩れた感じの話し方だと私は思っている。鹿児島弁は話しやすくなる良さコミュニケーション能力として使っていたらいいなと思っています。

あと鹿児島人はうるさいくらい明るいよ！だから、鹿児島弁とマッチしているから、さらに楽しさ2割増し！優しいんです。私の家は、県外や海外の人達にも優しいんですよ！そんな

鹿児島人ですが、心配性な人も多いんです。それが裏目に出て、人とコミュニケーションをとることを恐れている人も同時に出てくるんじゃないか。人とコミュニケーションを絶つと、人との関わり方を学べないし、楽しさも分らない。確かに難しいんです。人って。中学3年生の私でも「人」って難しいってなりませぬ。

私は小学生のとき、人一倍人見知りでおとなしくて、しょっちゅう仲間はずれにされて、家でけっこう泣いたりして。でも3年生くらいになってくると、「おとなしいからつまらない人生なんだなあ」と思っています。そこから私は、自分のことだけを考えないで、人のことをよく考えるように思考変換をして、過ぎてきた結果、こうなりました。今ですごくいるいる怖かったり苦しかったりするときもありましたけど、意外と楽しかった思い出の方が多いですね。はい、話がそれました。要するに鹿児島人は、心配性が多いから、自分のことばかり

心配する人が増えて、コミュニケーションを絶つ人が増えてしまうと鹿児島暗くなっちゃうよ!?というのが不安です。そこで提言したいのは、人が関わり、つながる場をつくり、鹿児島を「家族化」することを狙って、フェスや大規模

体育大会を開く!!ということ。私は一度あるアーティストのコンサート、フェスの現場に行つてやっぱ、そのアーティストが好きで皆来ているから、「このアーティスト好きなんですか？」から始まる会話が増えて、友達がたくさん増えて、とても

にぎやかに盛り上がって、すごく楽しかったです。だからそういう盛り上がっている場に行くこと、すごくみんな気軽に話せて、人と人とのつながりが大きく広がるから、こういう場が増えてほしい。そういう場が増えたら、私はみんなに「そういう場に今

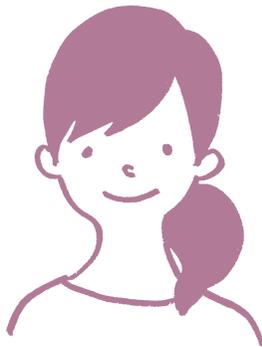
度行ける機会があるからどうですか？」とか「一緒に行かない？」という情報をあげたり、自分もなるべく参加するようにすること、そこで出会った人々というんな会話をし、人々とのつながりを大切にしながら、つながることを宣言します。

提言

行く前にウキウキして、
楽しみになるような
イベントを
してほしいです。

宣言

社会に役立ち、
家族と楽しめる
イベントがあったら、
私も参加することを
宣言します。



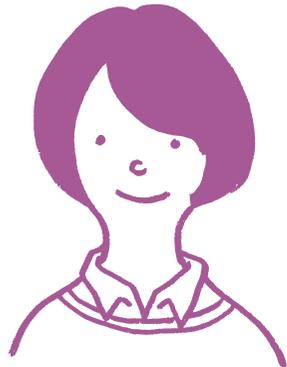
中学校の
女子生徒より。

私は外が好きです。そんな私は、手に職を早くつけて、人の役に立つ仕事をしたいです。休日は家族とお出かけしたいです。鹿児島は晴れてる日が多いから、外に出やすいと

思いますが、それと同時に外出しても、家族や友達と遊ぶ場所がないので不満に思います。そんな私は、社会に対して、行く前にうきうきして、楽しみになるようなイベントをしてほ

しいです。さらに街をきれいに暮らしやすくするイベントを行うことで、さらに住みやすくなると思います。例えば草むしり、「ゴミ拾い」などの機会のようなもの。そのような、社会に役立ち、

家族と楽しめるイベントにしたから、みんなが外に出て参加したくなると思います。そして私はそのイベントに参加することを宣言します。



高等学校の
女子生徒より。

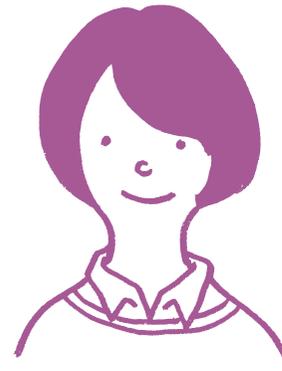
提言

鹿児島のPRや
学校でのハローワークの
機会を増やしてほしい
なと思います。

宣言

そして私は、
自分から進んで公共の
話し合う場に出ることを
宣言してみたいと思います。

私は、毎日学校に行けること、
自然が豊かなこと、衣食住が満
たされていることに幸福を感じ
ます。
そんな私は、これから進路を
きちんと決めて、働ける女性に
なりたいたいと思っています。それ
と同時に、鹿児島の人口や観光
客が減っていくこと、進路につ
いて不安を持っています。
そんな私は、社会に対し、鹿
児島のPRや学校でのハロー
ワークの機会を増やしてほしい
なと思います。そして私は、自
分から進んで公共の話し合う場
に出ることを宣言してみたいと
思います。



高等学校の
女子生徒より。

提言

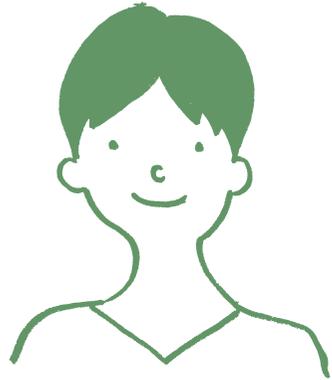
子どもが
様々な仕事に
出会い体験できる
チャンスがほしい。

宣言

そうした機会があれば
積極的に参加し、
知っている仕事の幅を広げ、
夢を探していこうと思います。

私は楽しいと思うことを全力
でしているときに嬉しいです。
社会人になったら楽しんで生き
ていきたいです。趣味を大事に
しながらも、バリバリ好きな仕
事をするのが理想です。グス
トのにしこさん(ゲストの西さ
ん)みたいに。
今回、鹿児島で働く大人の
方々とお話をしました。みなさ
ん個性豊かで、様々なジャンルの
仕事をされています。鹿児島
にはまだまだ、私の知らない仕
事がたくさんあるんだというこ
とが分かりました。
その中でも特に印象に残った
事柄が、「社会人は色々な要素
の組み合わせである」というこ
とです。大人は得意なこと・好
きなことを組み合わせ、活かし
て働いているのです。しかし、
私には将来やりたい仕事がない
れば、得意なことありません。
だから今、とても進路について
悩んでいます。
そこで私は、子どもが様々な
仕事に出会うチャンスを与えて

いただきたいと思います。私たちには
まだまだ知らない仕事がたくさん
あります。様々なジャンルの
仕事を体験することで、やって
みたいことを見つけることができ
るかもしれないと思います。
そして私は、そのような仕事
に参加し、自分の知っている仕
事の幅を広げ、夢を探していこ
うと思います。さらに自分から
積極的にチャレンジしていこう
と思います。行ったことのない
場所を旅してみたり、いくつか
違うアルバイトをやってみたり
する中で、自分の好きなこと・
得意なことを見つけてみよう
と思います。
あと、今年玉龍高校では中高
生ミーティングってのが高
校の生徒会の中だけであること
が知らされていたみたいなの
で、今度は中学生でも高校生で
も全校生徒に行く人いません
かと誘ってみたいと思います。
来年はもっとたくさんの人
が参加してくれるんじゃないか
と思います。



高等学校の男子生徒より。

提言

この先、生まれてくる子供たちに「受け止める優しさを学べる」幼稚園や保育園、小学校をつくってほしい。

宣言

皆が喜ぶこと・良いことを、自分ができることはできるだけ何でもします！
というか、したいです。

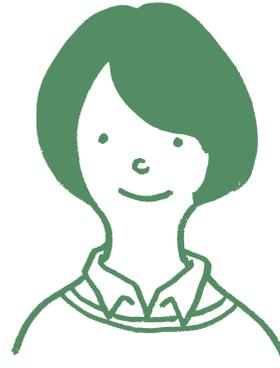
私は人と接することが大好きです。自分の意見を相手に表わしてどんと受け止めてくれる人と話すことが、いまの嬉しいことです。

鹿児島の良いところといえ、やはり人情に溢れている。人が優しいところが鹿児島のいいところだと思っています。自分が意見を発信して、反する意見を持っている人達や受けとめてくれる優しさのない人たちが少なからずいるのではないかと、いうことが不安です。30代40代50代の人達に優しくしようと思っても、自分はまだ18歳で、その人達に言うとしたら偉そうになっちゃうから、その逆の発展をする。逆の発展というのは、小さい子どもたち。この先生まれてくる子供たちに「受け止める優しさを学べる」幼稚園や小学校、保育園をつくってほしい。最近廃校廃園になってきているので。私は小さいころに「人に対する優しさ」として、という事を教えてもらいまし

た。この教えをもらい、今の自分がいます。

これから生まれてくる子どもたちに教える、先生だけに任せられるのではなく、愛護会に入り地域の人と一緒に連携しながら教えるということを手助けできたらなと思っています。自分ができることはできるだけ何でもします！というか、したいです。

自分の身体は80歳くらいで終わるかもしれないけど、良いことをすることによって神様や仏様があなたは良いことをしたから80歳まで生きただけ2年から5年は長生きしてもいいよ。悪いことしたら、あんた悪いことしたんだからちよつと5年くらい長生きさせないよみたいな。75歳で人生終わらせちゃうよってなるかもしれない。だったら良いことをして、何年でも生きていけるように、皆が喜ぶこと、良いことをしていければ、長生きもできるのではないかなと思います。



高等学校の女子生徒より。

提言

「市民の平等」に関する小さな問題をもっと取り上げてほしい。

宣言

どんな人とも壁を作らず、差別しないように心がけます。また、「市民の平等」に取り組むコミュニティにも積極的に参加していきます。

私は今まで頑張ってきたことが認められたときに幸せを感じます。私は情報会計科という商業系の科なので、たくさんの検定を受けます。頑張って勉強した検定に受かったときはすごく嬉しいです。逆に差別のあることを見聞きすると悲しい気持ちになります。

そんな私は、これから小さなことでも努力する人になりたいと思っています。なぜそう思ったかという、小さなことこそ簡単に思え、手を抜いてしまうからです。それと同時に私は今の世の中、大きい物事に集中しすぎて、小さな物事を見過しがちなところと、みんなが平等に生きていないことに不安を感じます。

そんな私は社会に対し、平等に関する小さな問題をもっと取り上げてほしいです。例えば、いま3年生で就職の面接内容で、ひとり親だったら「なぜ父親がいないのか」というしてはいけない質問をする企業があるんですよ。そういうところが、

前科のある人が就職しようとしても、前科があるというだけで差別されるという問題や集落差別というものもあり、この集落に住んでいるから採用しないというのがあります。このような問題を自分のこととして、みんなが捉えられるように知る機会を増やしてほしいです。

あと私はもともと鹿児島に住んでいたので、1度熊本に転校をして。熊本の人達と結構「どこから来たの?」と初日からいろいろ聞いてくれて。だけど鹿児島に戻ってきたら、鹿児島の人ってあまりそういうのがなくてそれでなじむの時間がかかって、やっぱり鹿児島の人にはそういう他県から来た人を迎え入れる環境をつくってほしいです。

これから私は、どんな人でも壁を作らず、差別しないように心がけていきたいです。また、差別の問題に取り組んでいます。コミュニティなどに積極的に参加していきたいと思っています。

1日目

まちを歩き、
 商売・仕事を
 している大人を
 訪問する。

集合

導入
 チームをつくる時間



まずは緊張を解き、仲良くなる時間。全員で協力しなければクリアできないゲームを行い、4グループに分かれて、「チームで3日間を通して大事にしたいこと5カ条」をまとめました。

お昼休憩

まちづくり探検！



「まちでイキキと働く大人たちに会いに行こう」4グループで2箇所ずつ、合計8人の大人たちを訪ねました。お店や職場など、普段入らないような場所での話を聞き、たくさんの方々がありました。

探検での気づきを共有する時間



「まちで大人たちと出会って、話して、どんなことが印象に残った？」グループでたくさんの方に書き出し、他のグループが訪ねた大人の情報も交換し合いました。

2日目

多世代の
 ステキな大人の
 生き方を聴く。

集合

他世代ゲストとの
 対話の時間



「素敵に生きる、20〜50代の大人たちの生き方を知って、『鹿児島で生きること』をイメージできるようにしよう！」大人たちの生き方、仕事のやり方は中高生が想像していたよりずっとワクワクできるものでした。

お昼休憩



お昼の時間は引き続きゲストの方々と一緒に、「講演」のように前でも話しているのを聴くだけでなく、こうして身近で話をすることで、気軽に質問を投げかけることもできました。

他世代ゲストとの
 対話での気づきを
 共有する時間



「ゲストのお話、彼らとやりとりしたこと、印象に残ったことは？」ゲストから寄せた熱量もあり、1日足りずと早く、たくさんの方に気づきが書かれました。本当に多くの気づきがあったようです。

「提言と宣言」の
 準備をする時間



この提言書の2ページ目にあるような流れで、提言と宣言をまとめていきました。ただ「〇〇がほしい」と発信するだけでなく、それをどんな人が、どんなことを感じながらつくったのかを伝えることで、メッセージ性を強くしたい、という思いから、中高生には慣れないプロセスでしたが、大学生スタッフが共感しながら引き出すことで、だんだんと形になっていきます。

3日目

社会への
 「提言」と「宣言」を
 つくり上げる。

集合

2日目に引き続き
 「提言と宣言」の
 準備をする時間



午後の提言と宣言の発表に向け、最後の詰め作業。一人で根を詰めるだけでなく、周りの人を相手にリハールををし、内容に磨きをかけていきました。

お昼休憩

提言と宣言
 発表



「今までが一番楽しめた発表にしてみたい。」そんな思いを込め、大きな拍手で発表開始。多くな反応をもらいながら伝える時間を楽しんでもらえたと思います。発表後には会場の40名ほどの人から「感想ふせん」のプレゼント。「とても嬉しかった」「発表、楽しかった」という声を聴くことができました。

三日間の振り返り



「この三日間で自分はどうな成長をした？どんなところが変わった？」自分のことを振り返るとともに、共に過ごしたチームメンバーへの感謝の言葉も書き含めました。

17:00 16:00 15:00 14:00 13:00 12:00 11:00 10:00

17:00 16:00 15:00 14:00 13:00 12:00 11:00 10:00

17:00 16:00 15:00 14:00 13:00 12:00 11:00 10:00

訪問先の大人たち

「鹿児島のみちの中でイキイキと仕事をしている大人」代表として、「このまちで豊かに生きること」を伝えていただきました。



コトカキ屋 小笹 雄一郎さん
 薩摩ぼん商店 満崎 千鶴さん
 有限会社Jサポート 代表取締役 井上 順二さん
 旅と食堂 kiki 斜木 志帆さん 濱崎 聡さん
 鹿児島市市民協働課 山下 毅さん
 山下商店 マルヤガーデンズ直売所 岸 佳乃さん
 SANDECO・COFFEE 数学カフェ／数学塾 代表 上野 晋太郎さん
 りらくくすヨーガ 西村 里美さん

トークゲストの大人たち

「鹿児島で生きる20〜50代の素敵な大人」代表として、「かごしまで豊かに生きていくこと」のイメージ像となっていました。



株式会社富士通鹿児島インフォネット 原田 啓孝さん
 薩摩川内市 地域おこし協力隊 下飯島担当 関 美穂子さん
 株式会社まからず屋 代表取締役社長 中尾 成昭さん
 ホテルゲートイン鹿児島 代表取締役 崎元 秀紀さん
 コミュニティビジネス「コミュニティキッチン」準備中 西 弘子さん

大学生スタッフメンバー

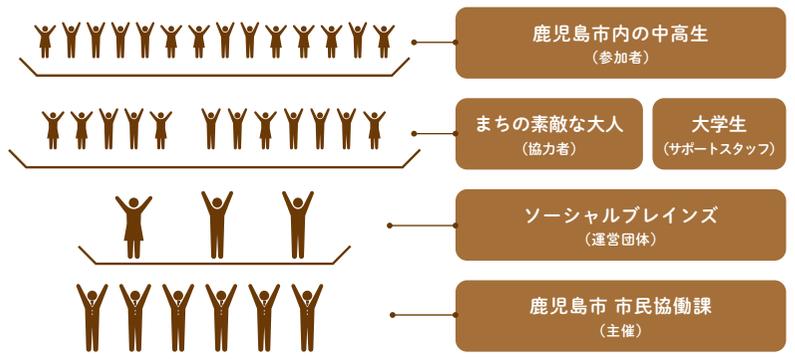
対話の場の経験を積んだ頼もしいメンバーが、3日間中高生と向き合い続けてくれました。



鹿児島大学 有村 ひかるさん
 鹿児島大学 宇都 寛高さん
 鹿児島大学 大橋 奈月さん
 志学館大学 奥 麻央さん
 鹿児島大学 白石 歩さん
 純心女子大学 草留 早紀子さん
 鹿児島大学 前田 祐加さん
 鹿児島大学 畠中 聡志さん
 鹿児島大学 鮫島 歩さん
 カメラマン 木村 優香さん
 福岡大学 中間 恭平さん
 鹿児島大学大学院 松永 千紗さん
 鹿児島国際大学 内田 成美さん
 鹿児島国際大学 福島 花咲里さん

構成図

様々なセクターがまさに「協働」して、この機会が成り立ちました。鹿児島のみちが持つ可能性を感じる運営となりました。



私たちの想い

提言書・報告書だけでは当日の熱量は伝えきれません。参加した勇氣ある中学生、22名。彼らに本気でケアする大学生、14名。彼らに真剣に語りかける、人生を楽しむ大人たち、13名。まずは私たち企画側が、当日を迎えるまでに大学生に熟を込める。当日、大学生が開始時から全力で中学生に向き合う。中学生は、最初はとても緊張しているけれど、徐々に「ここではこんな風にふるまっていんだ。」とわかってきて、前のめりになってくる。それに引き出されるように、大人たちが大切にしていることや人生のことを真剣に語る。中学生も大学生も大人も渾然一体となったフラットな場を共有する。この言葉では形容しきれない「場の効用」「人と人との相互作用」が、中学生の中で潜在的な「こんな風に生きたい」「こんな社会で生きたい」という思いを醸成していったと思います。その思いは、大学生が共感を持って根気良く聞き出すことで顕在化され、今回の「提言と宣言」となりました。

この機会を経て、私たちが思ったことは2つ。
1つめは、「この提言に社会の大人が全力で応えていくことが必要だ」ということ。中学生たちは本心に良くがんばったと思うし、今、彼らはきつとこれまでで一番「社会」というものに近くなり、大きな期待を抱いているところだと思います。鹿児島市が提言を受け取り、市政にどう活かしていくかを考えてくださるのですが、そもそも当事業のご担当は「市民『協働』課」。提言にどう応えるのかという大切なことを、市民も協働して考え、実行に移していくことが、中学生の期待に応えるためには必要だと思えます。その必要性には、今回の大学

生・大人たちも共感しており、まずは有志の活動として「この提言に社会の大人が本気で応えていく場」を開いていきたいと思えます。
2つめは、「多様な人と対話できる機会を中学生は強く欲しているし、社会にとっても大切な機会だ」ということ。大学生や大人が「真剣に、肯定的に、反応良く向き合ってくれた」ということ自体が、彼らにとって自信になったり、これから生きていく上での希望になったりするのを、参加中学生の声から感じることもできました。家庭でも学校でもない第3の場所として、今回のような場は社会的なニーズがあることが推測されません。同時に、大学生・大人にとって高い効用を期待できる場であるとも思えます。自分の初心を思い出して活力を得たり、人と関わる力を高めたり、社会に具体的な形で貢献できているという喜びがあったり。また、こうした場につながった人とは、次の新しい協働につながるやすいというのでも大きな副産物です。子

はかすがい」といいますが、子どもたちは社会にとってもかすがいになるのだと思えました。これからの鹿児島に、決まった誰かが大きな負担を背負う形ではなく、「協働」として、「できる人が、できることを、できるだけやってみよう」と、互いに気軽に声を掛け合える関係性を広げながらやっていく」形で社会的なニーズに応える動きがあることが望ましいのではないかと思います。「そういつた形で一緒に取り組んでいける方々に増えてほしい」「そのためのアプローチをそれぞれの場所です実践していく」という2つを、今回参画したスタッフの「提言と宣言」としたいと思えます。これから、それぞれの人が自分にとっての「豊かさ」を喜びながら暮らしていける鹿児島であることを願っています。

講師・・・
ファシリテーター 石川世太
運営団体・・・
特定非営利活動法人
ソーシャルブレインズ

主催した鹿児島市役所の
市民協働課としての想い

鹿児島市子どもミーティング開催事業は、平成22年から行っている事業で、次世代を担う子ども達が、本市のまちづくりについて、夢やアイデアを出し合い、意見交換を行い、その意見を市政運営の参考とすることで、若い世代の市民参画の推進を図ることを目的としています。また、民間の知識やノウハウを活用するため、市民活動団体に委託しており、企画や運営については受託団体と一緒に、協働・検討する等、行政と市民活動団体が協働して事業を実施しています。今年度、中学生の参加者のみならず、サポートしてくれた大学生、ゲストの社会人の皆さんのおかげで、大変熱のある素晴らしいミーティングとなりました。中学生の皆さんは、これからの3日間の熱い想いを忘れず、まちづくりや地域活動に積極的に参画してほしい。また、市としても中学生の想いをしっかりと受けとめ、協働によるまちづくりを一層推進していきたいと考えています。

開催概要

《平成27年度 鹿児島市子どもミーティング開催事業》

◇名称：かごしま『まちづくり』中学生ミーティング

◇参加者：
鹿児島市内在住または鹿児島市内に通学する中学生 22名
(男子・女子割合) 男子5名 女子17名
(中学・高校割合) 中学生4名 高校生18名

◇日時：
8月8日(土)10:00-17:00 第一回/まち歩きから考える「豊かさ」探し
8月9日(日)10:00-17:00 第二回/他世代との対話から考える「未来」探し
8月10日(月)10:00-17:00 第三回/成果発表・中学生による提言と宣言

◇場所：鹿児島市教育総合センター(和室)

◇講師・コーディネーター：
石川 世太(ファシリテーター)
小笹 雄一郎(コトカキ屋 代表)
飯福 あずみ(ルシエルマルシェ 主宰)

◇目的：若い世代の市民参画を推進するとともに、その意見を市政運営の参考にしていくこと。
◇対象：公募により参加の、鹿児島市内在住、または鹿児島市内に通学する中学生

【主催】鹿児島市 市民協働課 TEL: 099-216-1204
【実施・運営】特定非営利活動法人 SocialBrains (ソーシャルブレインズ)